

2

大すきなもの、教えたい(わたしの町はっけん)

国語科

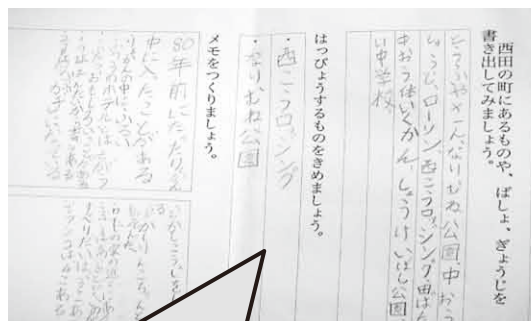


授業の実際

4 時間目 / 5 時間

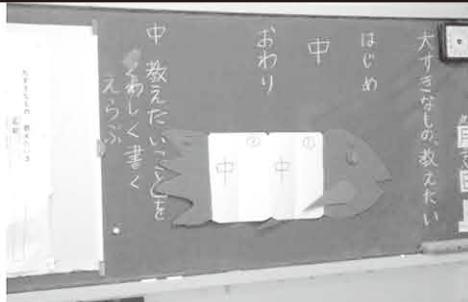
<導入>

前時までの流れを確認する。
(地域の「大好きなもの」について)



町にあるものをたくさん集めたよ。
発表するものを決めたよ。

「大すきなもの」について、
「はじめ・中・おわり」のある文にしてい



<展開>

書きたいことを二つ選んで、「中」を書きましょう。

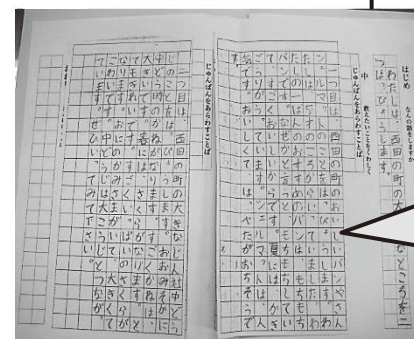
- 順序を表す言葉を使う。
- 「です」「ます」など、丁寧な言葉を使う。
- 自分の考えたことや気持ちを加える。



「善福寺川には鳥や生き物がいて、気分がいいです。」
もう一枚はよく遊ぶ〇〇公園のことを書いて知らせよう。



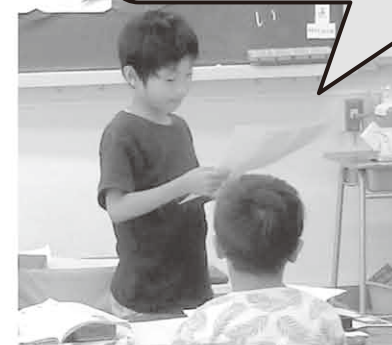
どの順番に話すといいかな。
考えてワークシートに貼ったよ。



<終末>

🔦 友達の書いた「中」の部分を読んだり聞いたりして、いいところを見付けましょう。

私が紹介したいものは、習いごとの先生です。とても優しいです。それから…



「中」の一つめはとてもおいしいパンを売っているお店のこと。二つめは近くのお寺です。桜もきれいに咲くことを伝えたいな。

ESD カレンダーの作成を通したカリキュラム・マネジメント

＜他教科等と関連付けた授業＞「生活科」「特別の教科 道徳」との関連

生活科「来て！来て！西田の町」

生活科「町たんけん」の単元計画を見直した。

○「季節による様子の違い」「植物の栽培」等、校内での身近な気付きや発見を広げ、友達と共有する楽しさを積み重ねる活動を国語科の「書く」力を伸ばすために関連付けた。また、学区域探検は複数回設定し「もっと見付けたい」、「見付けたよさを伝えたい」という気持ちを高めて活動できるようにした。

国語の力がないと、
「発見・気付き」を適切に表現し、
伝えることができない。

関連付けによる効果

国語科「大好きなもの、教えたい」ほか

児童に身に付けさせたい「話すこと・聞くこと」「書くこと」「発表する」に関する部分を見直し、単元計画を練り直した。

○「今週のニュース」の学習は、身の回りの出来事に関心をもち、他者に伝える文を書く練習として継続的に取り組ませた。スピーチや友達の話にコメントをすることが、批評する力の素地となると考え取り入れた。

特別の教科
道徳を効果的
に取り入れ、新し
い見方に気付か
せる。

地域で大切にされているものに目を向けるきっかけになる資料を選び、時期に合わせて実施した。

○特別の教科 道徳を要所で取り入れ、施設や店舗だけではなく「地域の文化と生活」に着目させるきっかけとした。地域の祭りなど、無形文化も地域の財産であると気付くことができた。

「町の大きいちょうの木」「どうぶつ村のおまつり」ほか

＜考察＞

カリキュラムをマネジメントするためには、それぞれの教科を単元レベルで考察し、関連性を見付け ESD カレンダーとして視覚化する必要があった。その作業は簡単ではなかったが、年度の早い時期からしっかりと学習の着地点を意識し指導することに役立った。児童は長期的見通しをもって複数の単元を横断できるので、楽しみながら学習に臨めたようだ。また、「今やっていることがどこにつながるか」見通しがもてたことで、課題のある児童も普段より意欲的に学習する姿が見られた。

＜今後の展望＞

引き続き、国語や道徳、生活科を関連させることで、他者の考え、または多様な考え方に気付く機会が増えるであろう。そのことから、より一層、楽しみながら学びが深まることを期待している。

